

# 事業概要票

事例NO. 43（平成21年度発表）

事例キーワード

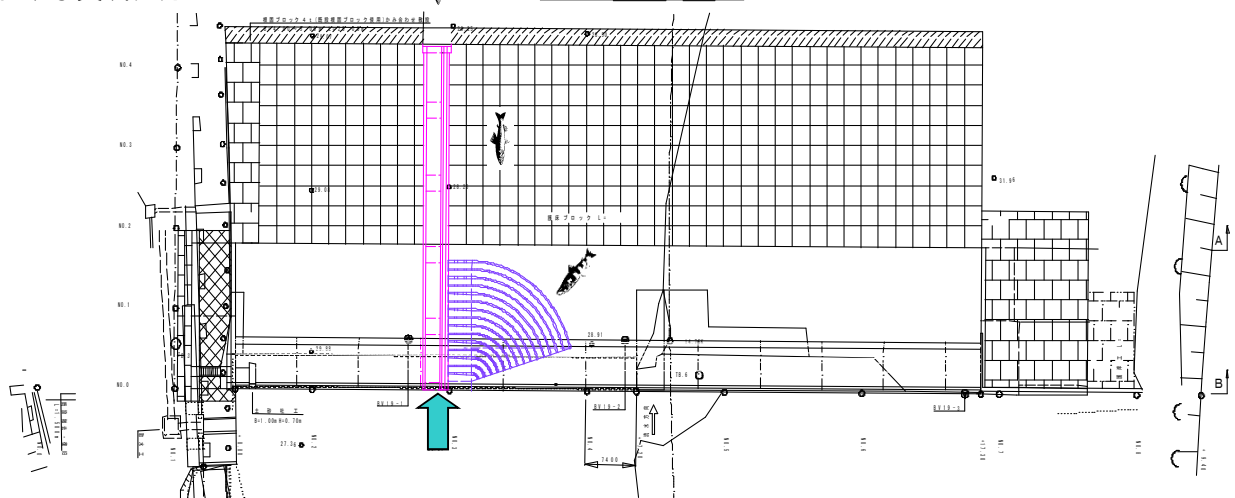
・生態系への配慮

事例キーワード

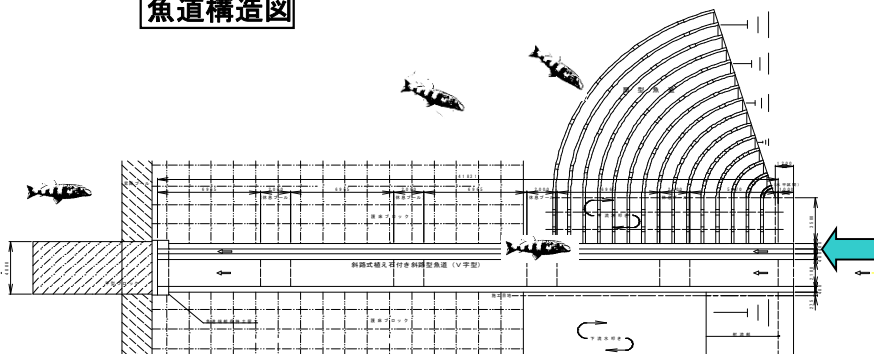
事業名	県営農業用施設災害復旧事業	
事業担当機関	北秋田地域振興局 農林部 農村整備課	・生態系への配慮
事業期間	平成20年度	
実施場所	北秋田市米内沢本城	
事業概要	全体事業費	164百万円
	工事概要	頭首工L＝58.4m（全体L＝108.5m）
	事業の目的	本工事は、平成19年9月16日～18日発生秋雨前線豪雨災害により、流失・損壊を受けた農業用施設（頭首工）の復旧工事であり、平成19年度及び平成20年度において県営災害復旧事業として左岸流出部分58.4mを、平成21年度は県営災害復旧関連事業として右岸損壊部分50.1mを施工し、復旧するものである。
環境配慮の内容	平成19年9月16日～18日発生秋雨前線豪雨災害により被災した現況が多段式木杭沈床であり魚道らしきものがなく魚道機能としては不完全な状況であった。 被災後の復旧構造をコンクリート固定堰としたことから魚道設計に当たり次の点に配慮した。 ①漁協への配慮 阿仁川漁業協同組合からの聞き取りによれば、阿仁川にはアユ・サケをはじめ10種類以上の魚類が生息し、漁期の制限を設けるなど管理をし（県内屈指のアユ釣り漁場）サケ・マス孵化場の施設を有している。 このことから、漁協には営利等に関する配慮が必要であるため事業の主旨・魚道設計及び工事等に協力を求めた。 ②対象魚種 阿仁川漁業協同組合からの聞き取り結果により、対象となる魚種として 大型魚は「サケ」、小型魚は遡上期の魚体が小さく遊泳力の弱い「アユ」を選定した。 ③魚道構造 大型魚・小型魚の体長・体高、突進速度等を基に魚道の設計流速・魚道幅及び遊泳に必要な最小間隔等を求め、魚道形式及び設置位置については水理特性・工事費・維持管理費等を基に比較検討するとともに阿仁川漁協・県水産振興センター、弘前大学等の意見を基に決定した。	
	施工後の状況	築造した魚道がその機能を果たしているか否かが重要である。H20年度施工区域は、全長108.5mのうち左岸部（魚道含む）58.4mであり、この時点では、右岸既存部は従来の多段式木杭沈床が現存しているため、魚道のみの遡上経路ではなかったが、漁協立ち会いのうえ、目視・聞き取りによる遡上調査を行い、その内容では当施設より上流へサケ・アユ等の遡上が確認されている。 H21年度において、右岸部50.1mを築造中であり、今後は魚道が遡上経路の主となることから本格的な遡上調査が必要となる。

## 図面、写真、説明

頭首工 平面図



魚道構造図



事業概要票

事例NO. 43（平成21年度発表）

図面、写真、説明

完成後 使用状況

